

【資料１】

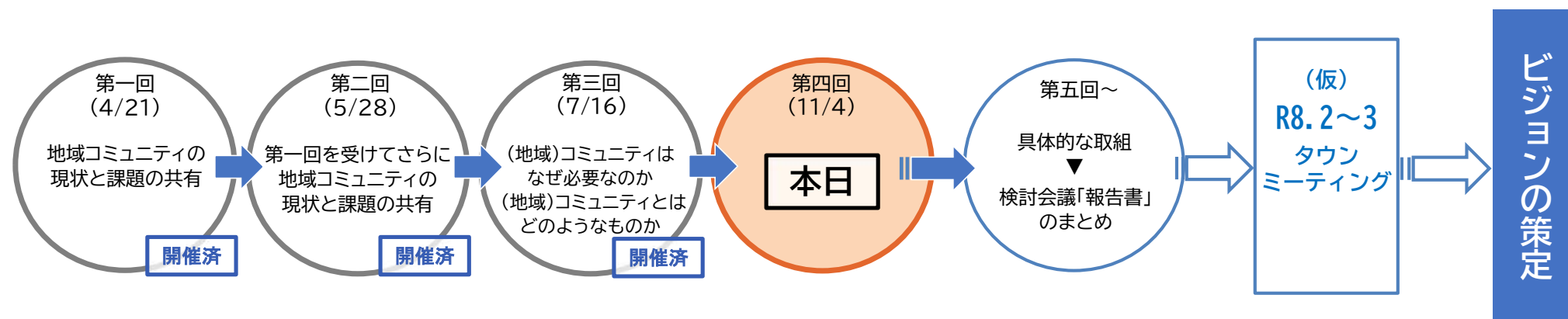
これまでの振り返りと本日の議題について

骨太の方針

北九州市地域コミュニティビジョン

未来像「多様な主体による全世代参加型地域コミュニティ」

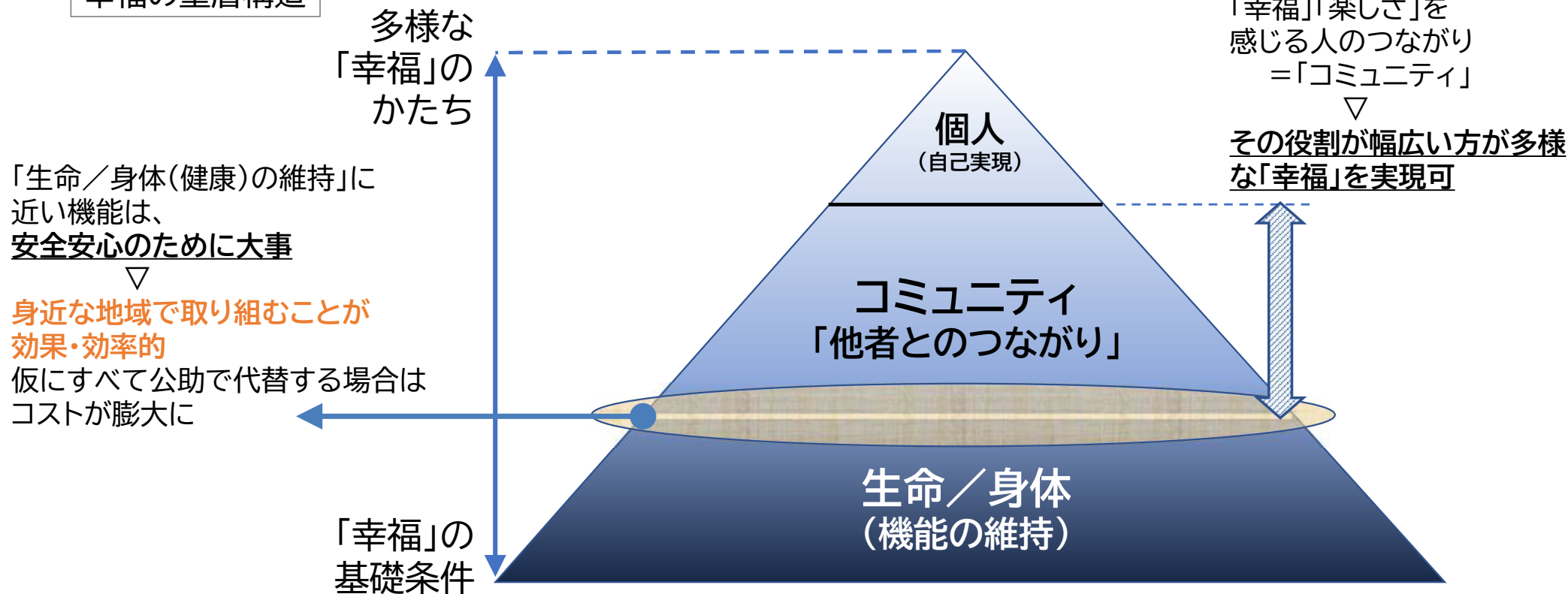
- ① 望ましい未来像を描き、そこから逆算して課題を解決
- ② 3つの大事な視点
「必要に応じて現状から変化」「関係者の垣根を越えて接続・連携」「好循環を生み出していく」
- ③ 市民性・気質を踏まえた議論を



第三回検討会議の振り返り

アプローチ①「コミュニティとは人の幸福に必要な他者とのつながり」 (ウェルビーイング)

幸福の重層構造

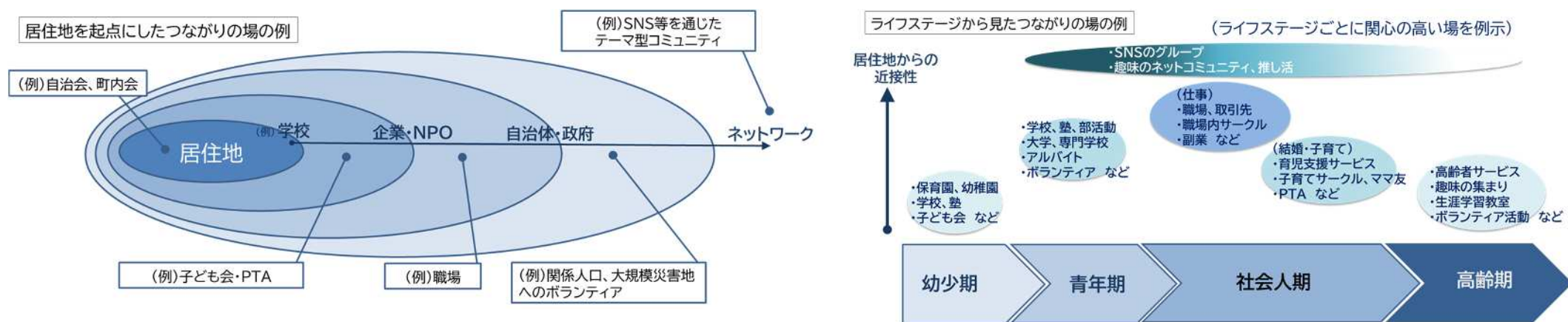


出典:「ウェルビーイング・幸福の重層構造」(廣井良典)をもとに作成

人の幸福に必要な他者とのつながりの創出⇒コミュニティ

第三回検討会議の振り返り

アプローチ②「他者とのつながりは多様である」



誰もが多様なコミュニティに参加しており、

居住地、目的に応じて関わり方が多様

年齢・家族構成・ライフステージに応じて関わり方が多様

議論の振り返り

コミュニティは人の幸福に必要な他者とのつながりを創出し、誰もが多様なコミュニティに参加している。

(主な意見)

- ・地域コミュニティに何が必要か整理し、組織のスリム化、見直しを図るべき。
- ・自治会・行政の役割の整理や地域団体間の役割の線引きが必要。
- ・地域で稼ぐという発想や補助金の柔軟性等の視点は考える必要がある。
- ・若い人の巻き込み方や若い人のアイデアを受け入れる仕組みづくりが必要。
- ・地域のリーダーになる人への研修や、地域が上手くまとまったノウハウを集めて水平展開をすることが必要。

第四回検討会議でご議論いただきたいこと

本日の議題

第四回で議論したいこと

- ・地域コミュニティの将来像に何が必要か。
- ・必要なポイントは何か。

地域コミュニティに関するアンケート調査について

地域コミュニティに関する市民アンケート調査について

アンケートの結果(概要)

1. 目的

地域活動へ参加していない(参加が期待される)層を中心とした現状・ニーズの把握

2. 手法

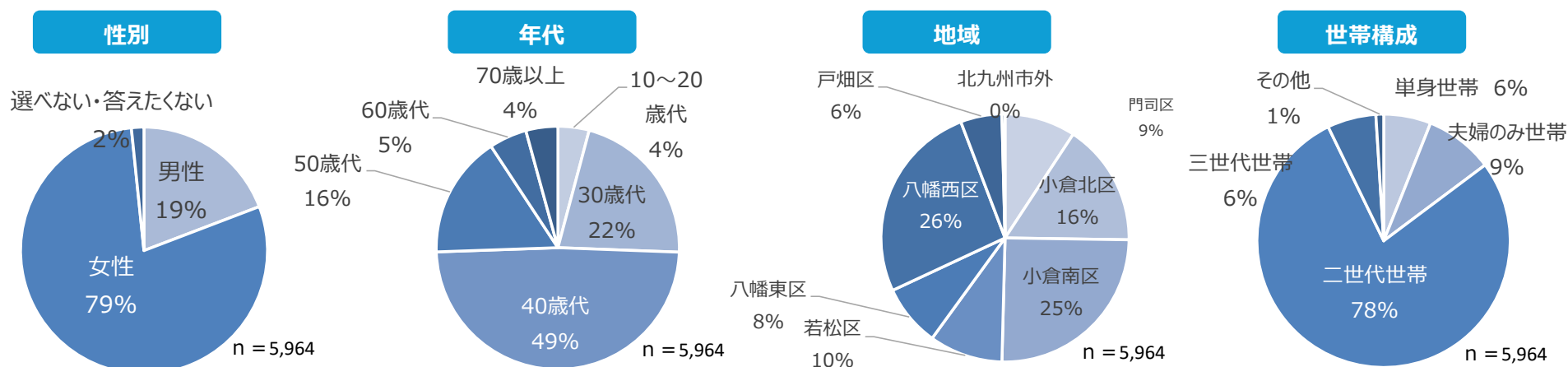
Webアンケート調査(tetoru・大学等を通じて参加を幅広く呼びかけ)

3. 実施時期

令和7年8月27日～9月10日まで(15日間)

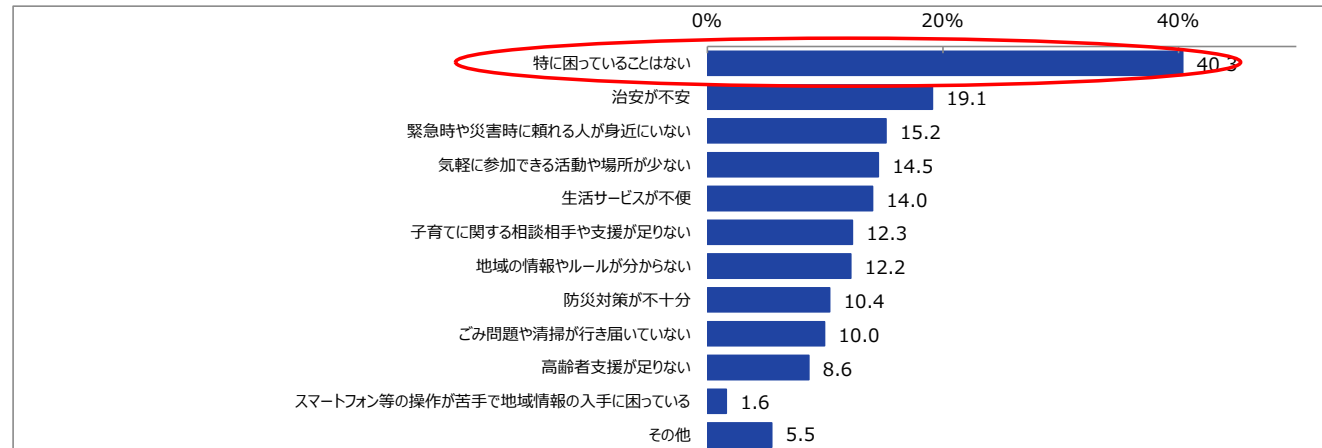
4. 回答

5,964件

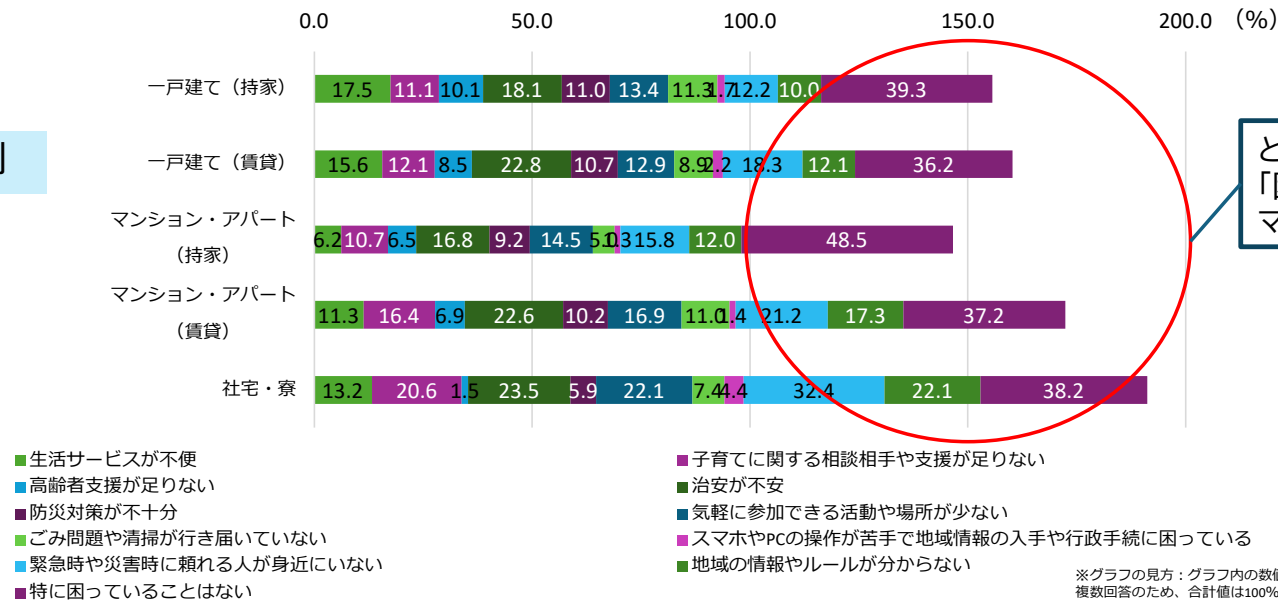


「地域」の認識、ニーズについて（クロス集計）

Q9.現在お住まいの地域での困りごとは何ですか？（複数回答）



居住形態別



どの層でも
「困っていることがない」が最多
マンション(持家)は特に多い

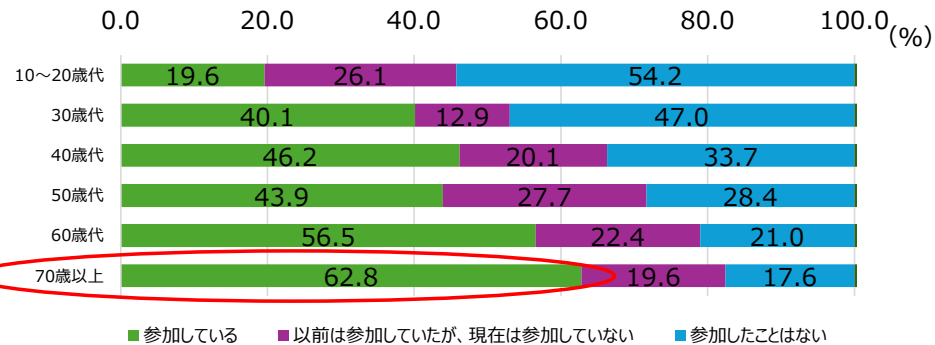
※グラフの見方：グラフ内の数値は、回答者全体のうち、対象項目に回答した「割合」を示す。
複数回答のため、合計値は100%を超える

地域活動の認知・参加について（クロス集計）

Q14.あなたは現在、お住まいの地域で何らかの地域活動に参加していますか？

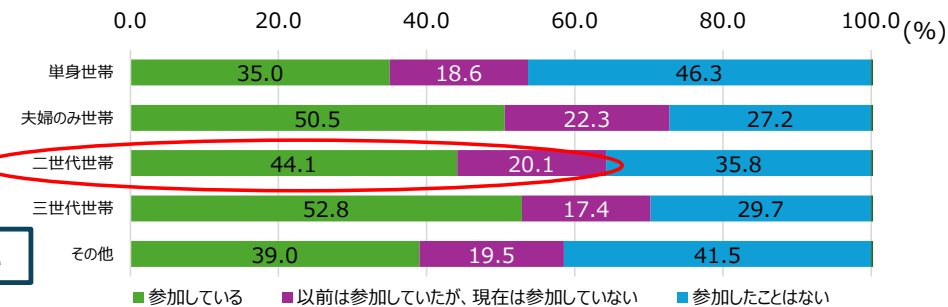
年代別

高齢世代ほど参加が多い



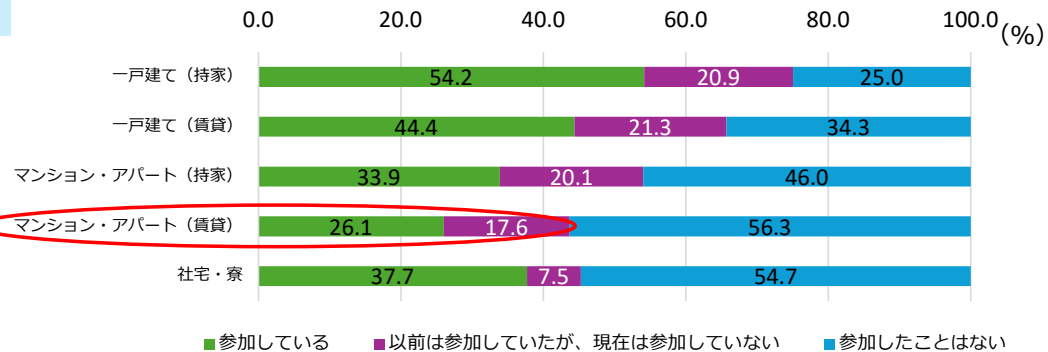
世帯構成別

二世世代世帯が比較的低い



居住形態別

マンション(賃貸)は地域活動への参加が少ない



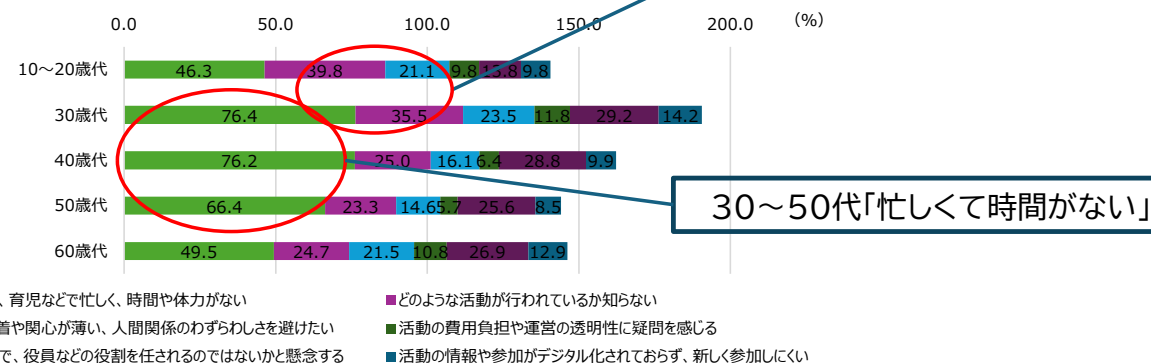
地域活動の認知・参加について（クロス集計）

Q17. 地域活動に参加しない理由や負担を感じる理由は何ですか？（複数回答）

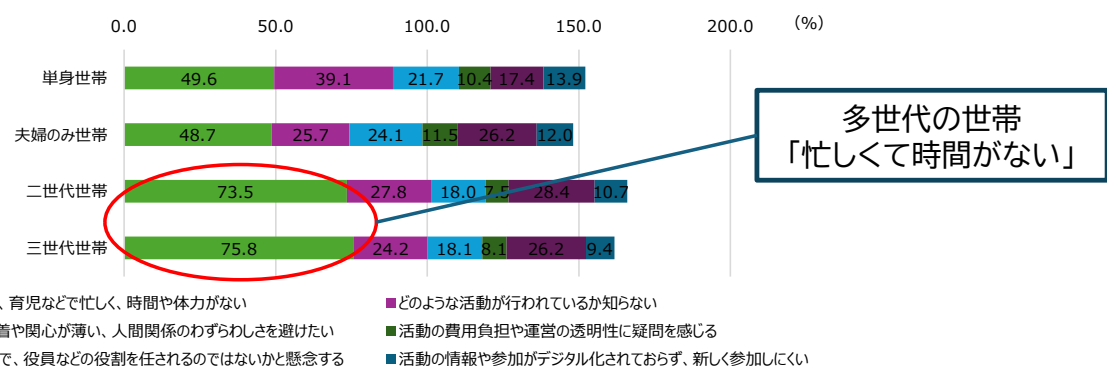
年齢別では、「忙しくて時間がない」を理由とする世代は、30歳代、40歳代、50歳代が多く、「活動を知らない」は、10歳代から30歳代までが多い。

世帯構成別では、二世帯、三世帯世帯が「忙しくて時間がない」が高い。

年代別



世帯構成別

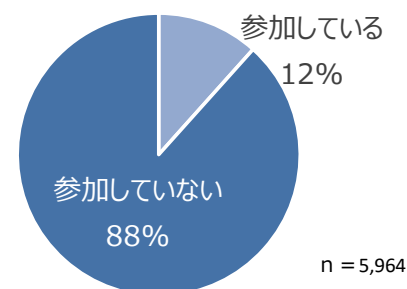


※グラフの見方：グラフ内の数値は、回答者全体のうち、対象項目に回答した「割合」を示す。複数回答のため、合計値は100%を超える

地域活動の認知・参加について

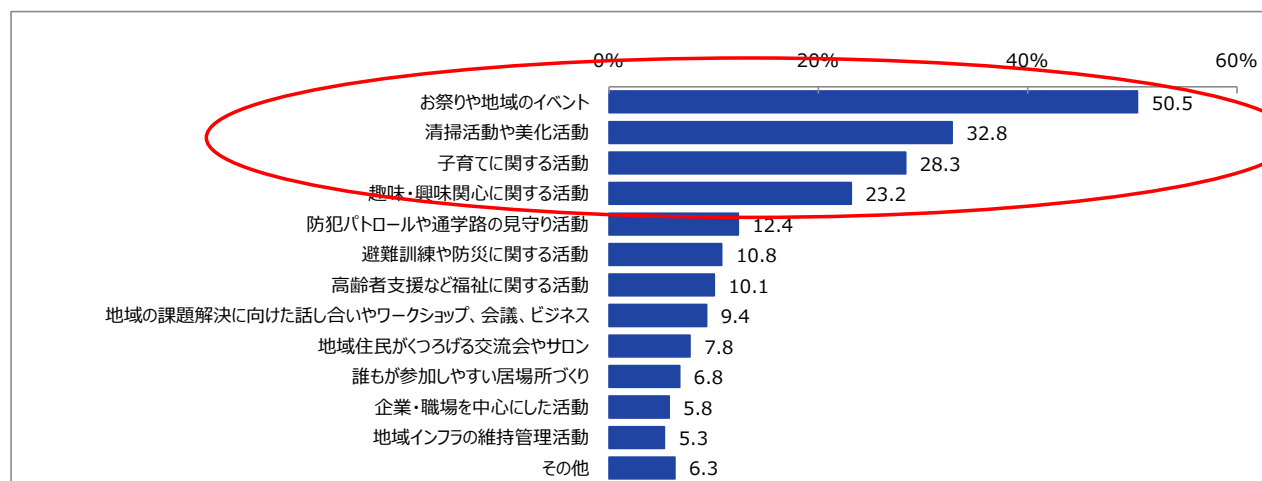
Q18.あなたは現在、お住まいの地域以外で何らかの地域活動に参加していますか？

項目	n	%
全体	5964	100.0
参加している	695	11.7
参加していない	5269	88.3



Q19. あなたは現在、お住まいの地域以外でどのような地域活動に参加していますか？（複数回答）

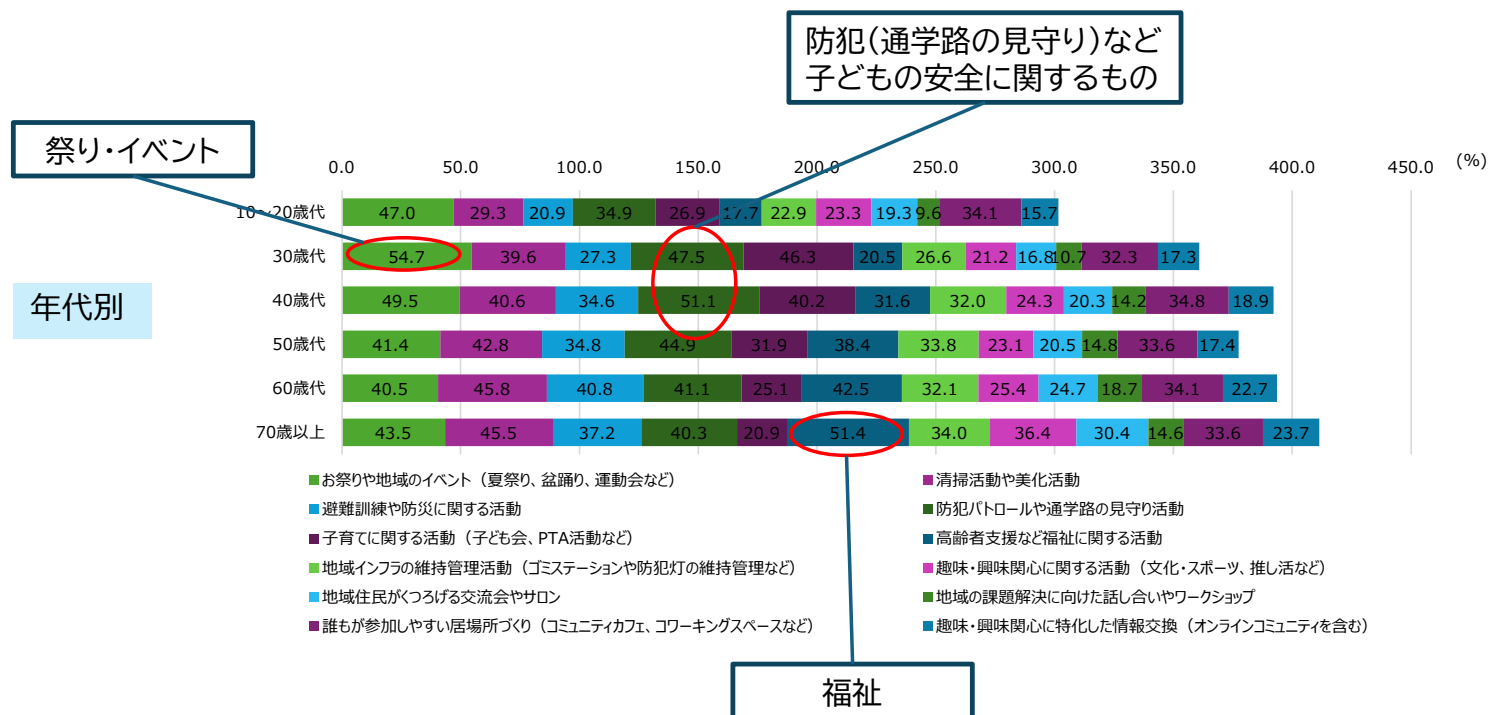
地域外参加者は「祭り・イベント」50.5%、「清掃活動」32.8%、「子育て活動」28.3%が主要な活動となっており、「趣味活動」23.2%への参加も一定程度存在する。



将来の地域活動への参加意向や見込みについて（クロス集計）

Q21. 今後、住みやすいまちづくりのため、どのような住民主体の地域活動が必要だと思いますか？（複数回答）

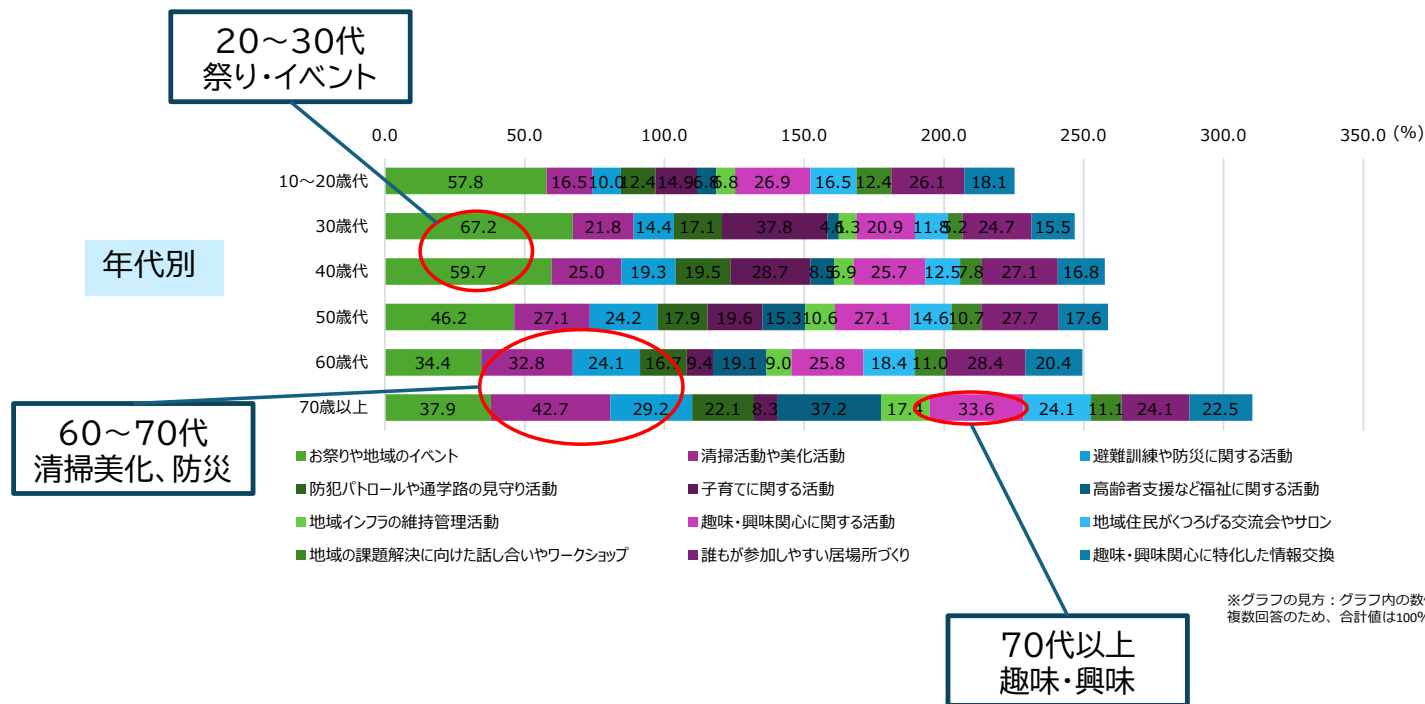
必要な活動は「祭り・イベント」「清掃」「防災」「防犯」が全体的に高い。
30歳代が祭り・イベント54.7%と他の年代より高く、**30歳代、40歳代が防犯、子育て活動**のニーズが高い。また、**高齢になるほど福祉**へのニーズが高まる傾向にある。



将来の地域活動への参加意向や見込みについて（クロス集計）

Q22. 今後、地域でどのような活動があれば参加してみたいと思いますか？（複数回答）

祭り・イベントへの参加意欲は10代～30代まで高く、年代に応じて低下する傾向にある。清掃活動や避難訓練・防災活動は、年代が上がるほど、参加意欲は高くなる。70歳代以上になると、趣味・興味関心に関する活動への参加ニーズが高い。

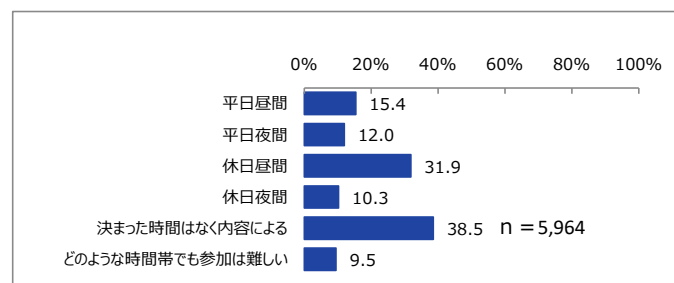


将来の地域活動への参加意向や見込みについて

Q23.あなたが地域活動に参加するとしたら、どのような時間であれば参加しやすいですか？（複数回答）

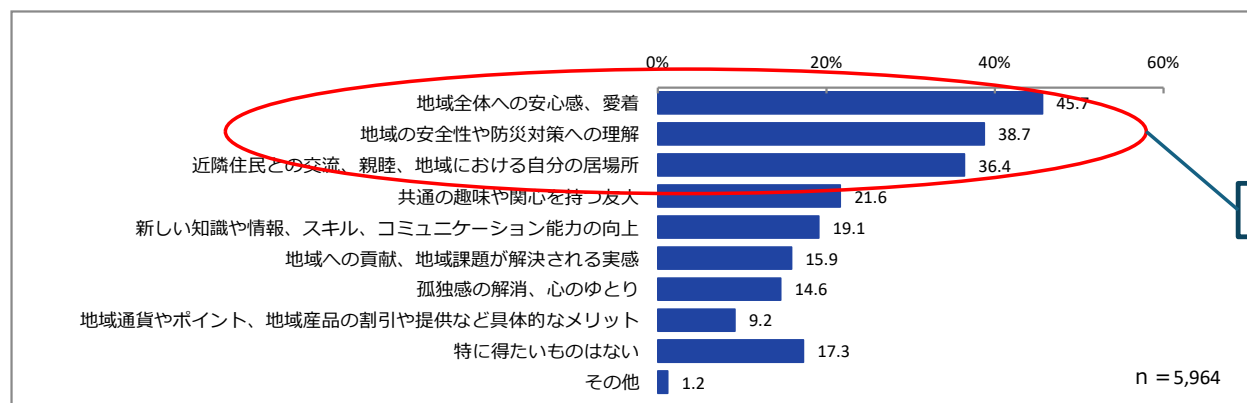
「内容による」38.5%が最多で、休日昼間31.9%の希望が高く、平日昼間15.4%、平日夜間12.0%は限定的。「参加は難しい」9.5%も存在し、時間的制約への対応が参加促進の鍵。

項目	n	%
全体	5964	100.0
平日昼間	919	15.4
平日夜間	714	12.0
休日昼間	1901	31.9
休日夜間	615	10.3
決まった時間はなく内容による	2299	38.5
どのような時間帯でも参加は難しい	566	9.5



Q24.あなたが地域活動で得たいものは何ですか？（複数回答）

「地域全体への安心感・愛着」45.7%が最多。「地域の安全性・防災理解」38.7%、「近隣住民との交流」36.4%も高い。「特に得たいものはない」17.3%も存在する。



「安心安全」に関するニーズが高い

地域コミュニティに関する市民アンケート調査について

アンケートの結果(まとめ)

- 地域生活に困りごとがなく、組織への参加の動機づけが難しい層が存在。
(地域の困りごととは何か＝「特に困っていることはない」40%が最多)
- 地域活動は、高齢者の参加が多い。(70歳以上は62%が参加)
世帯構成では二世帯世帯(44%)、居住形態では賃貸マンション(26%)は低い傾向。
- 不参加の理由は、「時間・体力がない」が多い。(70.2%)
特に子育て世代は他の世代より「時間・体力がない」の傾向が強い。

ニーズ・目的・テーマを入口として地域活動・「互助」への参加

デジタル活用で「情報が届く」「自分に合う参加方法・時間帯が選べる」

地域コミュニティに関する市民アンケート調査について

アンケートの結果(まとめ)

○目的・テーマによっては地域外からも参加する。
(地域外活動に参加12%「祭り・イベント」「清掃活動」「子育て活動」)

「エリア」を活動範囲として、多様な主体が連携するプラットフォームを通じた地域課題の解決へ

○地域の困りごとや今後必要な活動は「ごみ」「防犯」「防災」「子育て」など
人の生命・健康と関連するもので、地域活動で得たいものは、「安心・安全」
(地域活動で得たいもの＝「地域全体への安心感・愛着」45.7%が最多)

地域の役割をスリム化し、「人のつながり」に注力

継続的な安心・安全のためには、地域の資源が循環する仕組みづくりが必要

行政から自治会等への依頼業務について

自治会等への依頼業務について(令和5年度調査結果)

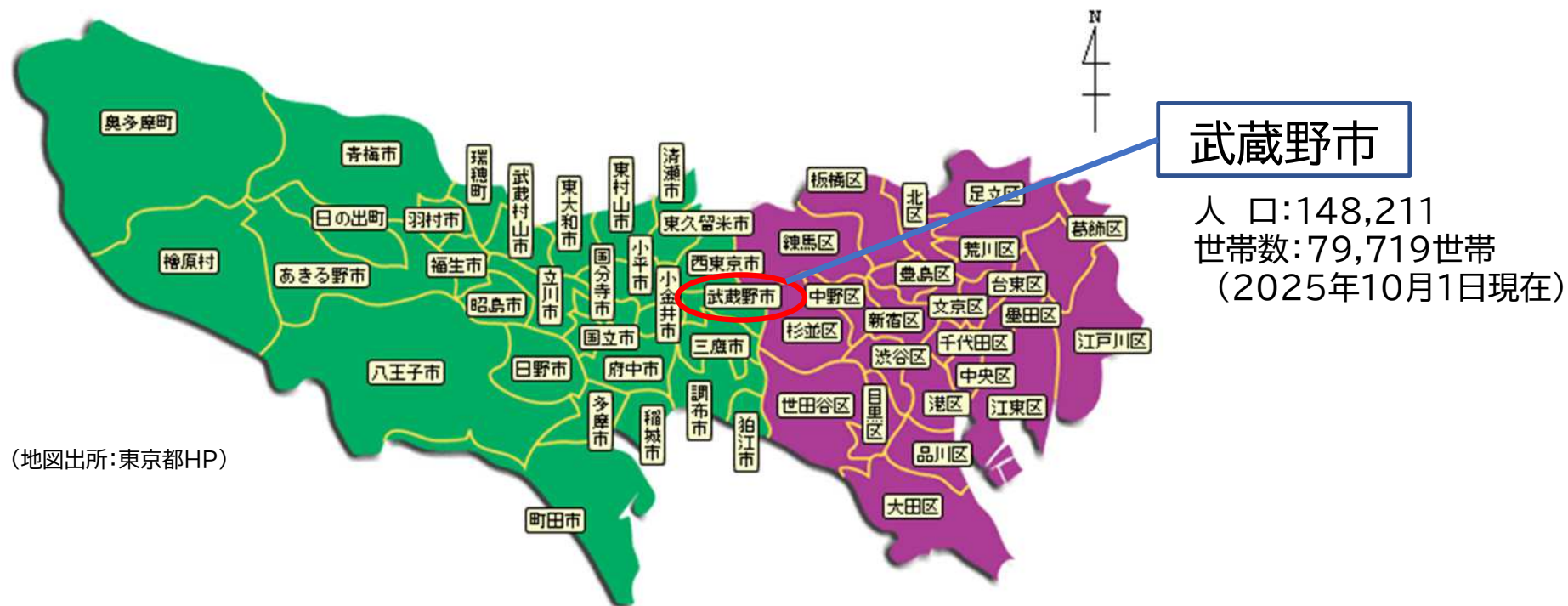
内 容			依頼数		
① 事業の運営協力(参画、共催、運営協力)を依頼した事項			H29	R4	R5
例	・放課後児童クラブの運営 ・不法投棄等通報パトロールの実施 ・全市一斉非行防止パトロールの実施	・防犯灯(カメラ)設置・管理 ・河川等の維持・管理(河川愛護団体) 等	24	21	22
② 委員の推薦、会議への出席を依頼した事項			H29	R4	R5
例	・交通安全対策会議の出席 ・迷惑行為防止推進協議会の出席 ・環境首都総合交通戦略推進連絡会の出席	・区主催イベントの実行委員会議の出席 ・民生委員の推薦 ・少年補導委員の推薦 等	12	10	15
③ イベント・講演会等の参加・動員を依頼した事項			H29	R4	R5
例	・交通安全運動キャンペーンへの参加 ・北九州マラソンボランティアへの参加 ・戦没者追悼式への参加	・まち美化キャンペーンへの参加 ・総合防災訓練への参加 等	40	24	22
④ 広報紙等の配布・通知を依頼した事項			H29	R4	R5
例	・市政だより(市議会だより)の配布 ・人権啓発情報誌の配布 ・公共工事(道路等)実施の通知	・イベントチラシ等の全戸配布 等	38	27	20
⑤ 事業等のお知らせ等の回覧を依頼した事項			H29	R4	R5
例	・地域交流センター広報紙の回覧 ・草刈り運動チラシの回覧 ・区主催イベントチラシ等の回覧	・公共工事の地元周知のための町内会回覧 等	66	41	32
⑥ 募金への協力			H29	R4	R5
例	・日本赤十字活動 ・歳末たすけあい共同募金 ・赤い羽根共同募金	等	5	5	6
⑦ その他			H29	R4	R5
例	・国民健康・栄養調査の協力 ・地域の空き家情報の提供依頼	等	15	9	10
計			200	137	127

本来、自治会等の地域団体が果たす役割に応じたものは何か？

参考事例

他都市の事例(東京都武蔵野市)

全市的な市民組織としての自治会、町内会がない市・武蔵野市

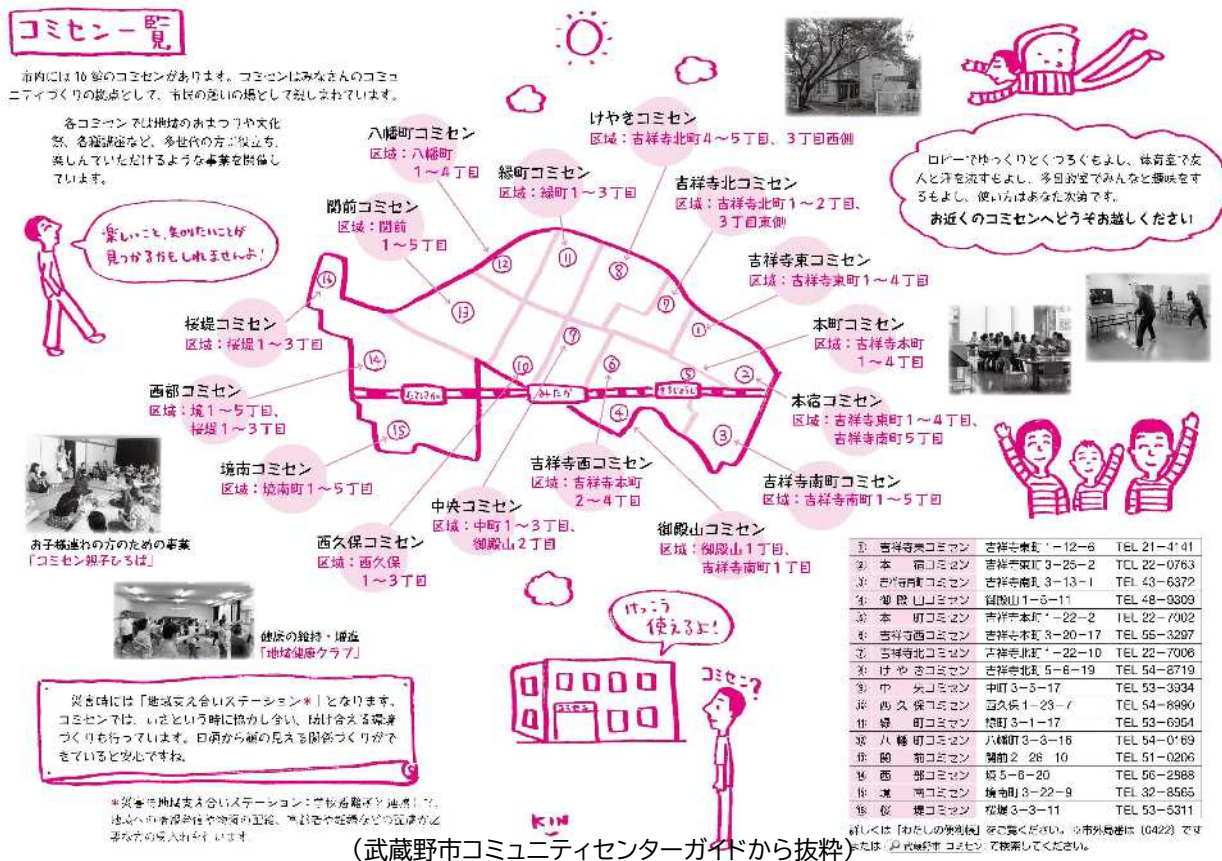


(武蔵野市HPから引用)

武蔵野市には、住宅団地自治会や一部地域における親睦的な町内会等は設置されていますが、全市的な市民組織としての自治会、町内会がないという特徴があります。そこで、昭和46年の第一期基本構想・長期計画において、新しいコミュニティ政策としてコミュニティ構想が策定されました。コミュニティ構想では、コミュニティを市民生活の基礎単位と位置づけ、市民による自主参加・自主企画・自主運営の原則に立った自律的・自発的なコミュニティづくりを目指しています。

他都市の事例(東京都武蔵野市)

住民(区域外の参加もある)が運営するコミュニティセンター



(武蔵野市HPから引用)

コミュニティセンター(コミセン)は、市民の誰もが自由に利用出来る多目的施設です。各館の管理運営は地域住民が担っており、各地域のコミュニティ活動や情報発信の拠点として利用されています。また、多目的室、会議室、学習室、調理室などさまざまな部屋があり、目的に応じてご利用いただけます。

他都市の事例(東京都武蔵野市)

インタビュー記事にみる地域活動のメソッド

2 冊

Interview

01

けやきコミセン

安藤 頌子さん



けやきコミュニティ協議会協力員、吉祥寺北町在住、クリーンセンター建設、武蔵野北高校の啓蒙などの市民活動に携わってきました。けやきコミセンの活動には、種別運動の当初から関わられています。

Q1 地域に関わったきっかけについて教えてください

道を走り回ると、すごいことを皆で一緒にやってきたと思い、感謝しています。私が地域に最初に関わったのは、PTAの仲間と取り組んだ「私立高校建設を進める会」という活動です。同じ年代の主婦たちが全体的に集まり、地域の問題に真剣に考え、勉強し、つながりが広がりました。市内にコミセンがあったことで全体的なつながりも生まれ、情報交換もすることができました。

今でも続けている活動は、地域の社宅の敷地の一角を借りてのガーデニングです。数十年前、邸心にあるその会社の支社を訪ねて、敷地を借りられないかお願いに行ったら、「結構です、どうぞ」と即答してくれました。人に人格があるように、会社には社格というものがあるのだと発見して感動したことを覚えています。

Q2 けやきコミセンの活動の柱は「偉い人をつくらない」、「決まりをつくらない」だと聞きます

一緒に活動していて偉い人と自分で思っている人がいたら嫌いです。現場で活動していると、偉い人は嫌いです。コミュニティ活動に偉い人が必要なのかと感じます。自分の意見を率直に言える、平等に話し合える、相手の意見を聞ける、そのような資質が大事だと考えていました。日々の地域の活動の中では学ぶことが多いです。普通の人がそれが偉いのではないのでしょうか。

組織では役割は必要ですが、役割に「長」と付くと偉い人になってしまう面があり、使えない方がいいと思っています。普段の付き合い合いで偉い人は必要ないし、素の自分を表しながらうまくやっていける、集団で仲良くなれる、一致できる。話し合えるという状況を作るほうが大事です。「偉い人をつくらない」というのはそのような意味です。

戦後の民主主義教育は自分に影響を与えました。再びあのような戦争は起こしたくないと、花づくりの活動も平和でなければ絶対にできないと感じています。

06

Q3

けやきコミセンが1989年に開館。協議会の組織作りの中で想いを具体化していきます

コミセンには、いろんな係・担当があり、いろんな意見がある人がいるので、コミセン運営は大変です。ただ、言いたいことを言えなければつまずかない、多くの主婦は議論に慣れておらず、男性も人との話し合いは苦手な人が多い。昔は家庭でも主婦たちは家長（という言葉が定まりました）の一言に従って進めるという様子でした。そのため、「偉い人をつくらない」という言葉につながったと思います。

「長」という言葉の付く役職を設けませんでした。感覚として、民主主義や平等についてとてもこだわりの部分があります。男女同権など、いまだにこだわりの部分があります。コミセンは最も日常に近いところであり、なるべく平らな関係性のほうがいいですね。

Q4

「決まりをつくらない」という点についてはいかがでしょう

家庭には親則は要らないです。ただふんわりと家風はできてるもので、コミセンもそれでいいと思っています。何かあれば話し合うということ、話し合いの際にお互いの立場が平等であることが大切で、決まりだからと言えば管理しやすいかもしれませんが、その決まりが正義になってしまいがちです。それよりも、その時間帯のコミセンの窓口当番が二人で考えればいい。人に説明することはその人の能力が上がることになります。窓口当番を担当することで自分の意見を言えるようになります。

Q5

日によって窓口当番の言うことが変わってしまうと利用者が困りませんか

もしそのように人によって考え方が異なることがあれば、窓口当番どうしや運営委員会でも話し合えばいいのではないのでしょうか。そうした気風が、けやきコミセンの中で伝わっていると聞きます。

自分の考えを言って話し合いができるということは、戦時中にできなかった経験です。このような今の時代を良い時代だと思っていてやっていくことが大切です。

コミュニティ協議会が生まれて50年経ちどうだったか、コミセンができて地域が良くなったのかを考えてみる時期に来ていると思います。

インタビューを終えて

施設の管理は、禁止事項などルールを設ければ簡単になるかもしれませんが、利用者の不便を招く恐れがあります。けやきコミセンの「偉い人をつくらない」「決まりをつくらない」という精神は、コミセンが市民連帯である意義を示しているようです。市民一人ひとりが自ら考え、お互いの対話によって解決策を探っていくのが、市民の力を育む場としてコミセンがあるのではないのでしょうか。

聞き手 小堀・キト（2021年8月）

※この記事は、2021年8月29日（日）、吉祥寺東コミセンにおける地域フォーラム「コミュニティ構想50周年」第5回に於ける安藤さんの講演をまとめたものです。

07

ガーデニングが活動
(楽しいことを続ける)

決まりをつくらない
(主体的・自主的)

偉い人をつくらない
(平等で開放的)

令和4年3月武蔵野市コミュニティ研究連絡会
「コミュニティ構想50周年記念誌」から抜粋

22

第四回検討会議でご議論いただきたいこと

これまでの議論や調査を踏まえたポイント

(たたき台)地域コミュニティの将来像に必要な3つのポイント

- 「楽しさ」や「興味」から「やりがい」へ
- 地域課題の解決に多様な主体の力を結集
- 地域活動に必要な資源が循環する仕組み

意見交換